

(1) 昨年度の振り返り

■立地適正化計画について（昨年度の振り返り）

これからのまちづくりに求められること

- 人口減少下においても、医療・福祉・商業等の施設や住居等がまとまって立地し、**一定の都市機能やにぎわいを維持**すること
- **公共交通を維持**し、中心市街地以外に住む人の生活利便性も確保すること
- 行政サービスの効率化により、財政面・経済面で**持続可能な都市経営**を目指すこと
- **災害に強いまちづくり**を推進すること

等

都市全体の構造を見直し、効率的なまちづくりを進めるため

「浜田市 立地適正化計画」

⇒ **いつまでも暮らしていける まちづくりを実現させるための計画**

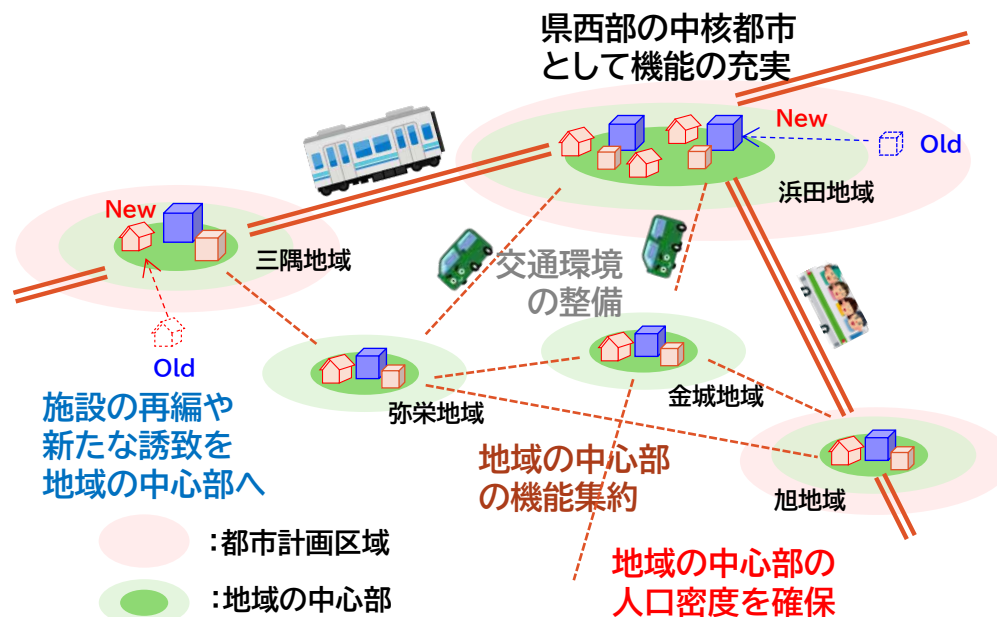
立地適正化計画で推進するまちづくりのイメージ

たとえば・・・

・地域の中心部へ行けば、日常生活に必要なサービスを受けられる

・それぞれの地域で、子どもからお年寄りまで、誰もが安全に、安心して暮らせる

・地域の歴史や文化を大切にし、将来にわたって守り続ける



■現状分析及び市民意見から抽出したまちづくりの課題（昨年度の振り返り）

項目	現況	主要課題
人口	○人口減少が続き、少子高齢化 ○まちなかにおいても、今後は人口密度の低下が進む見込み ○自然増減・社会増減ともにマイナスで推移	●人口減少の中にあっても、一定の人口密度とまちなかにぎわいを維持することが重要 ●「いつまでも暮らしていけるまちづくり」を目指し、必要な生活サービスの維持を図ることが必要
公共交通	○鉄道・路線バスや乗合タクシー、コミュニティワゴン輸送で広範囲をカバー ○公共交通の利用は減少傾向で、自家用車への依存度が高い	●公共交通を利用しやすいまちの姿を描き、実現を目指すことが重要 ●浜田市のまちの構造において最適化された公共交通網の確立が必要
都市機能施設	○5地域それぞれにおいて生活利便施設が立地しているが、山間部では数が少ない ○都市計画区域内や、支所周辺に多く立地	●既存の機能を活かしつつ、不足する機能は地域間で補完し合うことにより、各地域の生活サービスを維持することが必要
災害リスク	○中心市街地において、土砂災害リスクの高いエリアがある ○沿岸部付近において、河川洪水や津波リスクの高いエリアがある	●リスクが高いエリアは誘導区域から除外する等、安全・安心なエリアへの居住を促進することが重要 ●ハード・ソフト対策を継続的に推進することが必要
市民意見	○自宅から徒歩または公共交通で移動できる範囲に、生活サービス機能の集約が求められている ○若い世代ほど、市外への転出意向が強い ○気軽に利用できる飲食等のチェーン店や、医療施設・子育て支援施設が不足している ○浜田駅周辺等、空き地・空き家の活用とまちの魅力の向上が求められている	●コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進し、徒歩や公共交通で移動可能なエリアへの機能集約が必要 ●浜田駅周辺をはじめとする中心市街地の有効活用と魅力向上の取組が必要

■策定までの工程（昨年度から一部変更）

- R7～R9年度で計画の検討を進め、**令和9年度末**までの策定・公表を目指す
- アンケート等で収集した**市民意見**や、**庁内会議・都市計画審議会**の意見を反映させながら、**策定委員会**で計画内容の検討・協議を行う

前回提示した工程からの変更点

- 令和8年度中に**第3次浜田市総合振興計画**や**浜田駅周辺グランドデザイン**の策定を行う予定であり、これらの内容との整合を図るため、「誘導施策の検討」等については**翌年度**に検討することとした

